

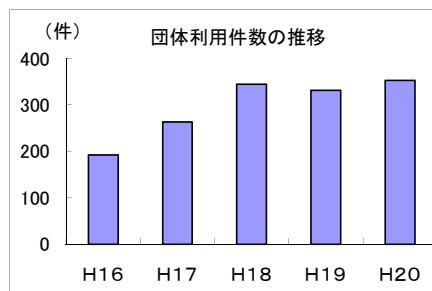
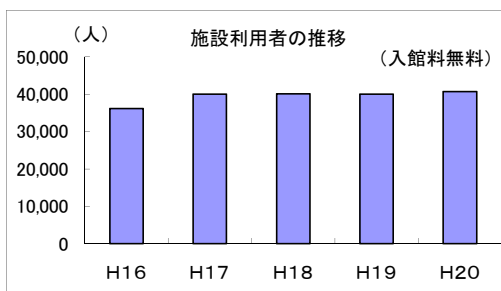
## 福井県自然保護センター(1/2)

自然保護センターは  
「郷土の自然を感じたい、知りたい、そして考えたい」  
そんなあなたを応援します。

所在地	大野市南六呂師169-11-2		
設置年月日	平成2年7月12日		
施設の種類	展示・体験施設	施設管理主体	県
設置の目的	自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の向上に寄与することを目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	(本館) 木造・鉄筋コンクリート混構造3階建、延2,111㎡ (観察棟) 鉄筋コンクリート3階建、延418㎡ (本館) 展示場、レクチャーホール、工作室 (観察棟) プラネタリウム室：定員44名、天体観測室：80cm反射望遠鏡		
職員数	職員6人 非常勤嘱託2人 アルバイト2人 計10人		

### 利用状況等

	H16	H17	H18	H19	H20
利用者数(人)	36,136	40,023	40,115	40,033	40,699
(本館)	22,905	24,728	23,337	24,787	27,971
(観察棟)	13,231	15,295	16,778	15,246	12,728



利用状況の推移	<p>平成20年度の本館、観察棟の利用者数については、19年度と同様の約4万人でした。日本一星空観察に適した空として紹介されていることや、保育園、小学校等へのセンターの利用案内の浸透などにより、利用者数は安定しています。</p> <p>また、当センターが県内各地で開催している、自然観察会、自然講座等への参加者、企画展への来場者については、合計で約2千名を数えます。</p> <p>このほか、自然保護センターのホームページへの年間アクセス数は約6万2千件を数えています。</p>
---------	---

### 施設の特徴

#### センター本館(展示)

地域の自然の素晴らしさ、楽しさを発信することはもちろん、自然環境と自然保護を取り巻く国内外の情勢の変化に合わせて、今後の自然保護のあり方について学び考える展示内容となっています。

とくに、世界的な課題となっている生物多様性保全の問題について重点的に取り上げています。



#### 観察棟

3階：天体観測室(県内最大、北陸で2番目の大きさの天体望遠鏡)

2階：野外観察室(360度のパノラマ、大型双眼鏡等7台設置)

1階：プラネタリウム室(定員44名、スクリーン直径6.5m)

#### プラネタリウム



#### 調査研究事業

自然環境の状態を把握し、保護の基礎資料とするために、各種調査研究を実施(クマの餌となるブナ科樹木の堅果生産量把握に関する調査研究、渡り鳥保全調査 有害鳥獣分布状況調査 他)

自然保護センターホームページ URL <http://www.fncc.jp/>

### 平成20年度の特徴について

事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブナ科樹木の堅果生産量把握に関する研究(ツキノワグマ保護計画) (646千円) ツキノワグマの生息環境把握の基礎資料とするため、餌となるブナ科樹木の堅果(ドングリ)生産量を調査するとともに、堅果生産量の予測についても研究を行いました。</li> <li>・野生生物の生息地・個体数・被害の管理(鳥獣害のない里作り推進事業関連調査) (165千円) 県下全域に拡大したイノシシや嶺南のシカなどの被害に対して、野生生物との棲み分け、適正な頭数調整、農林業や人身への被害防止対策を総合的に実施していくための情報収集と提供を行いました。</li> <li>・重要な里地里山地域における保全計画づくり (430千円) 県が選定した重要な里地里山30地区の中のモデル地区に、専門家を派遣し、地域住民主体による保全活用を進めるための地域計画を住民とともに作成しました。</li> <li>・鳥類生息調査事業 (1,188千円) ガン・カモ科鳥類生息調査、渡り鳥保全調査、カワウ生息調査を実施し、その保全対策に資するための基礎資料としました。</li> </ul>
------	--

# 福井県自然保護センター(2/2)

## 行政コスト計算書(平成20年度) (単位 千円)

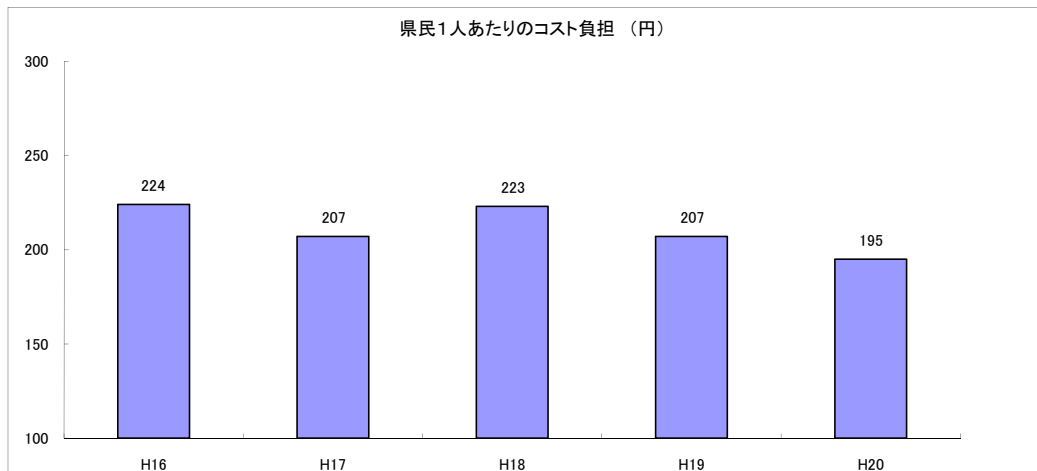
		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	67,231	42.5%	87.3%
	退職給与引当金繰入	▲ 7,877	-5.0%	9377.4%
	賞与引当金繰入	3,055	1.9%	皆増
	計	62,409	39.4%	81.1%
物にかかるコスト	物件費	33,739	21.3%	103.0%
	維持補修費	6,375	4.0%	172.4%
	減価償却費	53,666	33.9%	100.0%
	計	93,780	59.2%	104.1%
その他	支払利息	1,225	0.8%	93.2%
	その他	956	0.6%	85.7%
	計	2,181	1.4%	89.8%
合計		158,370	100.0%	93.4%
収入	利用料等収入	7	0.0%	100.0%
	一般財源	158,363	100.0%	93.7%

## バランスシート(平成21年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	533,238	90.9%	固定負債	201,258	88.5%
うち本館建物	398,329	91.0%	うち起債残高	159,066	92.6%
うち周辺施設	94,594	90.5%	うち退職手当引当金	42,192	75.9%
うち展示品等	33,461	89.4%			
投資等	0	-	流動負債	21,368	167.2%
流動資産	0	-	純資産	310,612	89.6%
計	533,238	90.9%	計	533,238	90.9%

## 主な指標 (単位: %、円/人)

	H20	H19	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	656	720	91.2
県民1人あたり将来負担額	248	279	88.8
世代間負担率	58.3	59.1	98.6



バランスシート、行政コスト計算書の特色	<p>人にかかるコストが全体の4割とやや高めですが、これは自然観察や天体観察、傷病鳥獣保護、各種調査業務などに嘱託職員を含め8名があたっていることによります。</p> <p>物にかかるコストが全体の6割を占め、前年比4.1%増加しています。これは、平成20年度に、観察棟の玄関およびあずまの改修、また飲料水濾過装置の修繕などにより、維持修繕費が増加したことによります。</p> <p>資産のうち、本館が約75%、周辺施設が約18%を占めます。また、展示品の7割は天体望遠鏡やプラネタリウムに関する設備等になります。減価償却が進んだことで資産の規模は9.1%減少しています。</p> <p>平成12年度に本館展示設備の更新を行っており、その際に借入れた起債残高が約1億6千万円あります。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>展示事業 (自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開)</p> <p>資料収集事業【H21予算額:51万円】 (自然に関する標本や文献、視聴覚資料等の収集保管)</p> <p>指導普及および研修養成事業【H21予算額:約2百万円】 (自然を学び、自然と共存しようとする動機付けの場の提供と自然保護に関心を持つ県民の育成)</p> <p>調査研究事業【H21予算額:約3.5百万円】 (自然環境の把握、保護の基礎資料とするための調査、研究を実施)</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境保護、生物多様性保全が世界的な課題となる中、自然保護行政の一端を担う当センターの機能強化が必要です。</li> <li>・自然保護思想の一層の普及のため、HP、マスコミなどを活用した情報発信のさらなる強化が必要です。</li> <li>・県民ニーズに沿った企画(観察会、研修等)内容の充実が必要です。</li> </ul>
今後の事業方針 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コウノトリが生息できる豊かな自然環境の実現を目指し、里地里山の保全、普及に関する講演会等や生物多様性保全に関する調査の公表など自然保護思想の普及を更に進めます。</li> <li>・県民への情報提供、ホームページの充実等を進めます。</li> <li>・自然観察会等のイベントに関しては、自然観察指導員の会等と協力してより充実したものにしていきます。</li> </ul>